

# ホセ・アレハンドロ・ラミレス博士講演会

## (第14回グローバルCOE主催講演会 ユニットD)

タイトル：**生徒のQOLに学校教育の質はいかなる効果を与えるのか：メキシコの例**

(Assessing the effects of the Quality Schools Program on the Students' Quality of Life:  
a case of Mexico)

日時：2009年3月27日（金）16時00分～18時00分

場所：京都大学教育学部 第2講義室（総合研究2号館1階）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/access.htm>

講演者：ホセ・アレハンドロ・ラミレス氏 (Dr. José Alejandro Ramírez)

(メキシコ・プエブラ＝アメリカス大学教育学部・教授、学部長)

司会：大山泰宏（京都大学准教授）

お問合せ：大山泰宏 [yasoyama@educ.kyoto-u.ac.jp](mailto:yasoyama@educ.kyoto-u.ac.jp) (@が全角なのでコピー&ペーストするときには注意してください)

### 講演者ほか紹介

ホセ・アレハンドロ・ラミレス博士は、1974年メキシコ国立自由大学で心理学を修め、スタンフォード大学で教育学と統計学で修士号を取得、1983年にはスタンフォード大学博士課程修了、Ph.D. (教育学)。1984年からメキシコ・プエブラ＝アメリカス大学教授。同大学は国立自由大学と肩を並べる、メキシコで最も研究・教育水準の高い私立大学である。

ラミレス博士の専門は、批判的・創造的思考の研究である。プエブラ＝アメリカス大学では過去2回学部長を務め、アルゼンチン、キューバ、スペイン等の諸大学やカナダのマギル大学から客員教授として招へいを受け、文字通り世界的に活躍している研究者である。

メキシコは、義務教育の質の向上と普及等の問題を抱えており、この問題に取り組むために、同大学には「生活の質と社会発展のための研究センター (El Centro de Estudios en Calidad de Vida y Desarrollo Social, 参考 <http://www.udlap.mx/cecavi/DefaultEn.aspx>) が設けられ、心理学、教育学、社会学等の研究者が協力し、学校教育改革プログラムを展開している。今回の講演会では、このセンターの活動と研究に言及しつつ、メキシコにおける学校教育が子どもたちのQOLの改善にどのように寄与しているかを検証してもらう。